

度が最終年度を予定している。また、嵩上げのための土の確保が大きな問題で、計画どおり進むのかということもあり、仮住まいをされている地権者の方の不安もあると思うので、今後充分な説明をしていきたい。

野田 寛 議員

豊野地区整備計画について

問 響原団地は、18年度に建設する計画であったが。

土木部長 来年度予算に、準PFI方式による鉄筋コンクリート造り2階建、もしくは3階建を検討している。

問 国道218号線の下巢林地区の右折レーンの新設計画は。

土木部長 早急な整備が必要と認識しており、県だけが右折車線を設置しても問題解決にはならない。市道側の改良も県事業と併せて実施したい。早ければ、20年度から実施設計、基本設計等が始まると認識している。

問 豊野小学校の整備計画は。



昭和37年に建設され老朽化がすすむ豊野小学校

教育部長 財政面もあるが、今の振興計画から言えば、21年度設計、22、23年度で建設ということになる。

物産館設置について

問 類似施設への影響はないか。

市長 国・県が行う道の駅事業を活用し、建設を行いたい。物産館の利便性や道の駅の立地条件等を考慮した場合、国道3号と県道松橋停車場線が交差する当尾地区が適地と判断している。また、類似施設、特にアグリパーク豊野とは距離的にも非常に近く影響が危惧されるが、共存共栄の方向を探りながら、それぞれの長所を伸

ばしていきたい。用地買収等にめどがつかなければ、再検討もあり得る。

財政計画について

問 宇城市において、18年度以降、庁舎別棟、統合三角小学校、また予定ではあるが物産館、不知火中学校、戸馳大橋など大型プロジェクトが目白押しであるが、今後10年に発行できる合併特例債は約300億円と限られており、宇城市の財政は大丈夫かという巷の噂もある。今後の計画は。

市長 合併特例債の限度額は、317億円であるが、160億円が限度と試算している。将来を展望するにあたり、今だから取り組みなければならぬ事業、今計画しなければならぬ事業があり、それを先延ばしにすることは、将来に後悔を残す。財政は大丈夫かとの質問だが、心配は要らない、大丈夫だ。国県の補助金や地方債事業によって、民間活力の活用も視野に入れながら、極力一般財源を使わず、将来の負担を少なくする方法を考えていきたい。

椎野 和代 議員

職員人事の方向について

問 国際社会に貢献する、心身ともに豊かな個性ある児童・生徒の育成を図るための、心の教育、食育、伝統文化の継承をどのように指導していくか。

教育委員長 生命や環境に優しい心身の育成、また伝統食文化、体験活動を活かし、道徳教育の推進と、郷土を愛する心の育成を目指した教育の実践をする。小学校3年生から中学校3年生の7年間を通して、日本、熊本、宇城の伝統食文化の修得を目指している。教職



小川町南小川地区の伝統芸能 雨乞太鼓

環境保全について

員の全員研修会を実施し、指導力の向上を図っていく。

問 遊休農地利用、里山づくり等で、環境美化、緑化を推進しなくてはいけないが、NPO法人宇城市環境保全隊の育成をどう図っていくのか。

市民部長 現在、市民537人、企業135社の皆さんが、宇城市の環境づくりに熱い思いを持って、会費を払い会員になっている。環境保全隊は、それぞれ海のブロック、里山のブロック、農地、公園等の事業を検討しており、その中でリーダー的な人達が誕生しつつある。市民、企業、各種団体、市挙げて支援が必要である。今年度小川地区の日岳の皆さんが、里山づくりの計画を進めているので、市全体のモデルになるよう指導している。

デマンド交通システムの導入について

架替えが必要ではないか。

市長 現在、調査業務委託を行っている。調査後、道路構造令の基準以下であれば、国土交通省の交通安全事業統合補助等も視野に入れて、架替えを検討したい。

廃棄物最終処分場について

問 三角町手場に建設が計画されているが、市としてどう対応するのか。

市長 環境保全は市政の最重要な政策と考えており、市民の意見を最大限尊重し、環境影響評価方法を吟味して、県に対して意見を述べていく。

三角小新築工事について

問 工事の進捗状況はどうか。
教育部長 予定から2ヶ月遅れている。国の制度改正があり、内定通知が遅れたこと、建設用地の一部未登録があったことが原因である。今後、工程会議等を通じて、学校、PTAと十分連携を取りながら計画工程内の完成を目指す。

問 高齢者の気軽な外出、各5町間の交流、商店街、地域の活性化につながるデマンド交通の導入の考えはないか。

企画部次長 赤字バス路線への県補助金が、10月から一部打ち切られること、自家用車の普及や過疎化、少子化の影響で、恒常的に利用者が減少している。地域の利用実態を踏まえた利便性の高い公共交通システム（タクシーの利便さをバス並みの料金で提供する）を導入しようと検討している。

西村 智 議員

分別収集コンテナの地元管理について

問 地元管理の問題点として、地区に置く場所がない。小屋が必要になる。野積みをしたら、子供たちが上に乗ってけがをする危険性がある。突風や台風でコンテナが飛ぶ危険性がある。各地区に置くことするとコンテナの数が膨大になり、管理もずさんになるので耐用年数が短くなる。松橋町のように1箇所で管

障害者自立支援法について

問 障害者福祉の流れは、施設福祉から地域福祉へと大きく変わろうとしている。その人たちの生活を支える住居の確保、また住宅サービスの充実が今現在確保されているか。また、市営住宅に低所得者障害者のグループホーム活用をするための優先枠を宇城市の障害者支援策としてできないか。

福祉部長 現在宇城市でも、施設から退所され、数人で家を借りて共同生活をし、そこ

港川防潮水門強制排水ポンプ設置について

問 この事業については、事業主体は県であるが、これまでの経緯と状況はどうなっているか。



港川防潮水門

三角島原航路について

問 フェリーが廃止になり、航路継続をどう考えているか。
企画部次長 港を中心に発展してきた三角町にとって、大きな痛手であり、情報を提供し、運営会社を探し、再開へ向け努力する。

問 今後の三角港をどう考えているのか。

企画部次長 三角港に賑わいを取り戻すには、物流だけに頼ることなく、行政港としての検討も必要である。三角港振興のための専門部会を設立して議論し、県に対しても提言していく。

戸馳大橋について

問 重要な生活道路として、